2014年7月改訂版

鋳物薪ストーブ
（クリーンバーン機能採用）

取扱説明書

このたびは、お買い上げいただき、ありがとうございます。
ご使用前にこの取扱説明書をすべてよくお読みいただき、ご理解の上で安全にご使用ください。
お読みになった後は、いつでも確認できるよう大切に保管してください。

JAN:4920501201484

型番：tbi-386A

■仕様
サイズ：(約)幅363×奥行615×高さ660mm
重　量：(約)75kg
煙突径：φ106mm
暖房面積：(約)20～25坪
使用可能薪サイズ：Φ8～10cm×長さ30cm以下

株式会社 コメリ
〒950-1492
新潟県新潟市南区清水4501-1
Tel.025-371-4805 Made in China

1407改

※製品の仕様および外観は、改良などの理由で予告なく変更することがあります。

安全にお使いいただくために

⚠警告 ⚠注意 の意味

⚠ 警告	取り扱いを誤った場合に、使用者が死亡または重傷を負う危険性、また火災やヤケド等の危険性が想定される内容を表しています。
⚠ 注意	取り扱いを誤った場合に、使用者が傷害を負う危険が想定される場合および物的損害の発生が想定される内容を表しています。 ※物的損害とは、家屋・家財および家畜・ペットにかかわる拡大損害を表しています。

マークの意味

	絶対に行ってはいけないことを表しています。
	必ず守っていただきたいことを表しています。

安全上のご注意

火災、けが等の事故を未然に防ぐため、下記の事項を必ず守ってください。
ご使用前に、この安全上のご注意すべてをよくお読みの上、指示に従って正しく使用してください。
お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見られる所に必ず保管してください。

⚠警告

使用中はストーブ表面や煙突を素手で触らないでください。

接触禁止

使用中は非常に高温になりますので、触ると危険です。触れる場合は革手袋等を着用してください。

薪以外の燃料や化学繊維・合板・竹などを薪として絶対に使用しないでください。

石炭・豆炭

化学繊維・合板・竹など

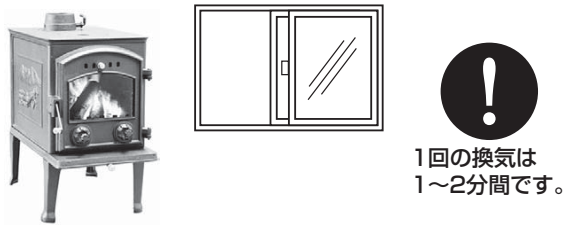
薪以外使用禁止

コークス・ガソリン・灯油・木炭・オガ炭等

火力が強くなりすぎ、異常燃焼を起こしたり鋳物面の破損の原因となります。

⚠ 警告

1時間に1～2回換気してください。

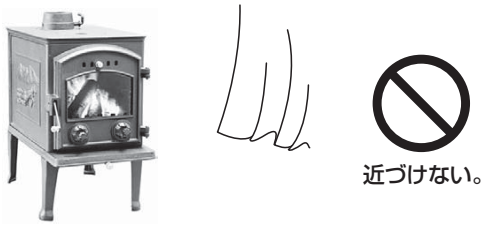


換気をしないと、一酸化炭素中毒の原因となります。

ビニールやスプレー缶を投入したり近づけたりしないでください。

引火や火災・爆発の原因となります。

カーテンなど燃えやすい物の近くには設置しないでください。また、洗濯物をストーブの上で干さないでください。



引火や火災の原因となります。

家具や家電製品を近づけないでください。

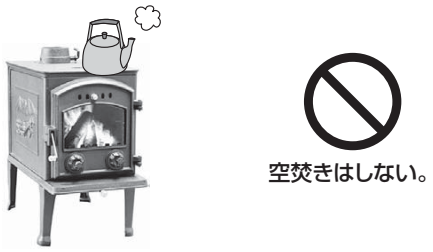
可燃物の変形、引火や火災の原因となります。

⚠ 注意

ストーブに水をかけないでください。

鋳物面がひび割れる原因となります。

やかんや鍋の空焚きはしないでください。

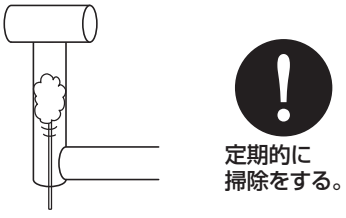


ヤケドや火災の原因となります。

薪投入時以外の燃焼中は、ストーブの扉を必ず閉めてください。

火の粉が落ちたり、大量の煙が発生し、室内を汚すおそれがあります。

煙突はこまめに点検し、定期的に掃除してください。



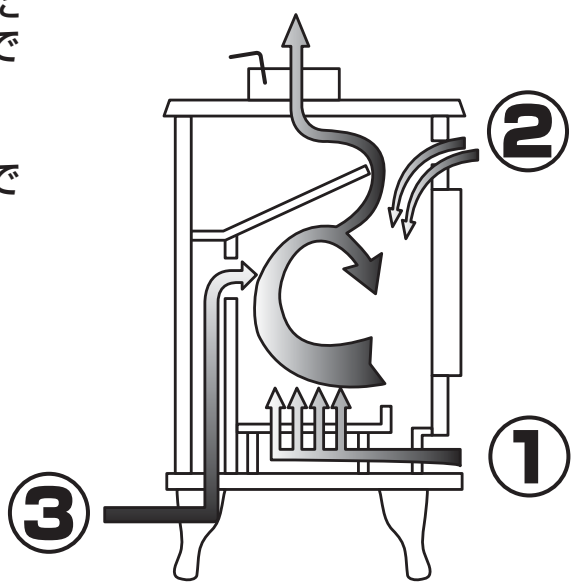
煙突にすすやタールが詰まり、不完全燃焼や煙道火災を引き起こす原因となります。

■鋳物薪ストーブ（クリーンバーン機能採用）

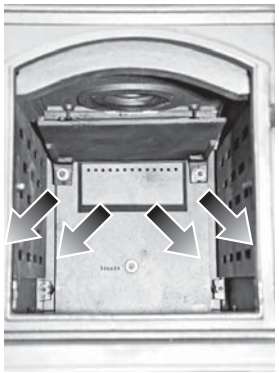
●よりクリーンな燃焼、熱効率をコントロールできる3次空気制御

クリーンバーン方式にすることで、バッフルの下の背面空気流入口から吹き付けられた煙と混合して、煙の中のガスを燃やすことで排気煤煙をよりクリーンに排出します。

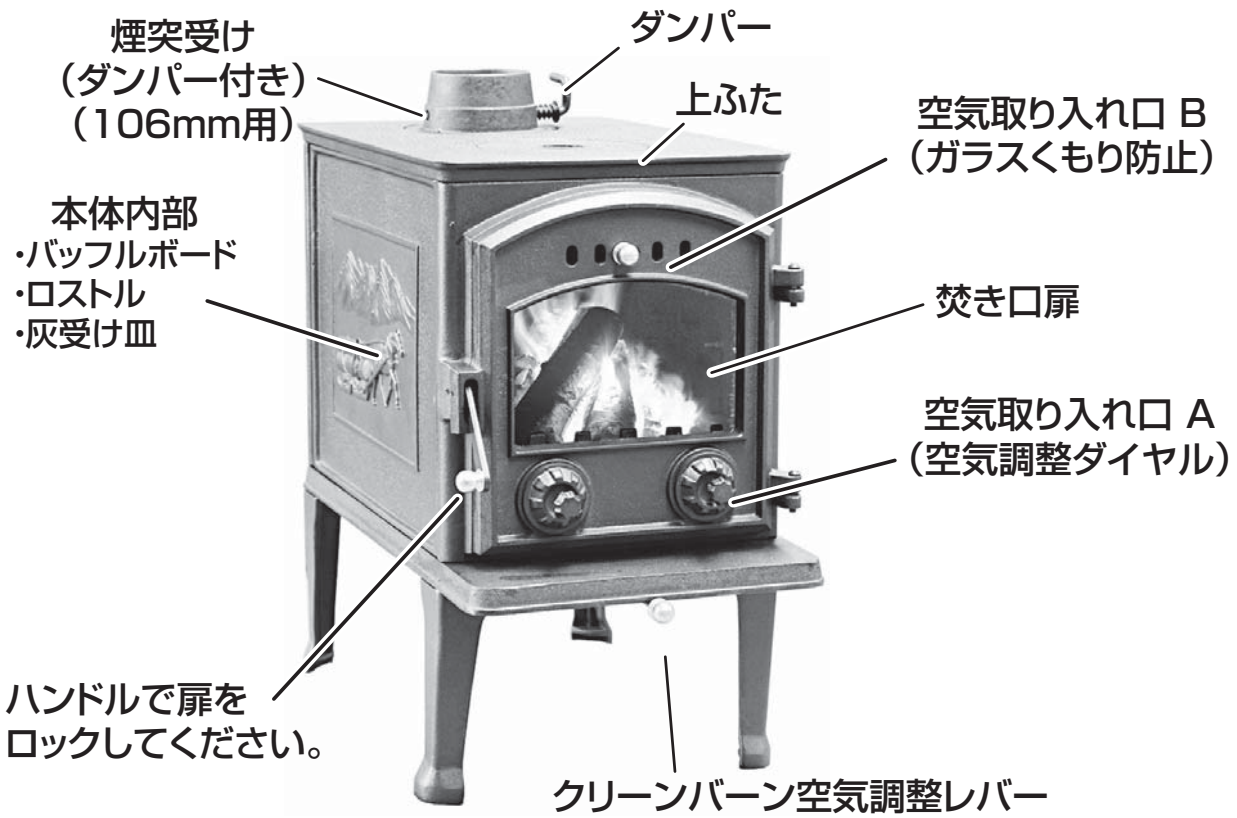
燃焼効率を高める機能をローコスト設計で実現させました。



よりクリーンな
薪暖房を
お楽しみ
ください。

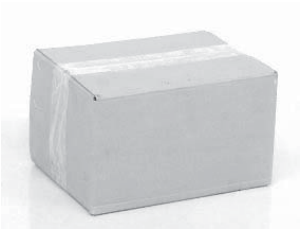


●鋳物薪ストーブの内容



■部品箱内容

ストーブ本体



部品箱

クリーンバーン
空気調整用レバーセット箱

クリーンバーン
空気調整用レバーセット一式

ビス×6

補修用耐熱塗料×1

煙突受け×1
（ダンパー付き）

脚部×4

皿頭ボルト×4
（予備×1）

六角ボルトセット×5
（予備×1）

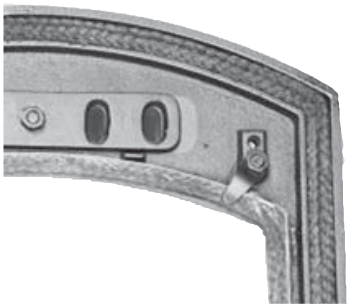
ハンドル
大･小×各1

ロストル、灰受け皿、上ふた等を
移動させる時に引っ掛けて使用します。

刷毛×1

■特殊耐熱ガラスの交換

ガラス固定ピンをゆるめガラスを
はずします。
古いグラスファイバーロープを
取り除き、装着部をきれいにします。



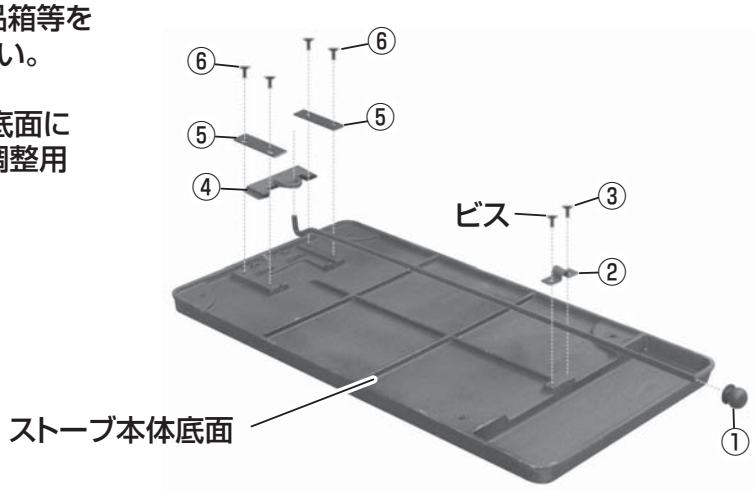
グラスファイバーロープを耐火
セメントで接着し、新しいガラ
スをはめ込み、ガラス固定ピン
で固定します。

■組み立て方

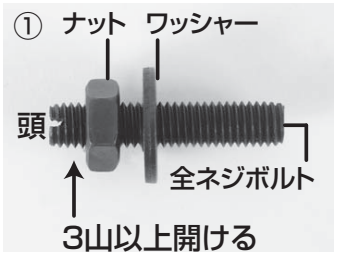
> ⚠ 注意　本製品は鋳物製のため、非常に重量がある商品です。
> 組立や移動したり持ち上げたりする際は、必ず2人以上で行ってください。
> また、組立時はケガをしないよう、十分に注意してください。

1. 焚き口扉を開け、中に入っている部品箱等を取り出し、部品点数を確認してください。

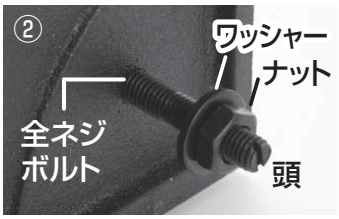
2. ストーブ本体を倒し、ストーブ本体底面に①～⑥の順にクリーンバーン空気調整用レバーセットを取り付けます。
（倒す際はガラスにご注意ください）



3. 脚部を全ネジボルトセットでストーブ本体底面に取り付けます。

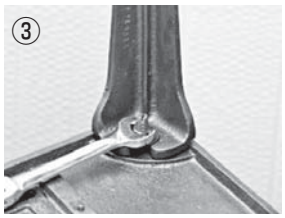


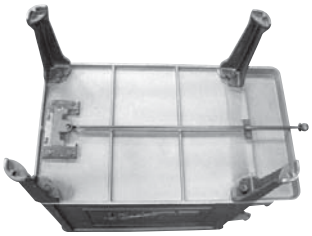
あらかじめ全ネジボルトの頭が3山以上出るようにナットとワッシャーをセットします。



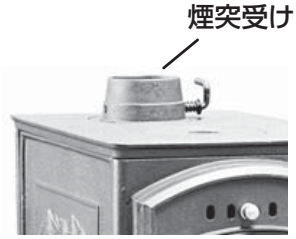
ストーブ本体底面にナットとワッシャーをセットした全ネジボルトを仮止めします。

ストーブ本体底面に、脚部を六角ボルトセットで取り付けます。

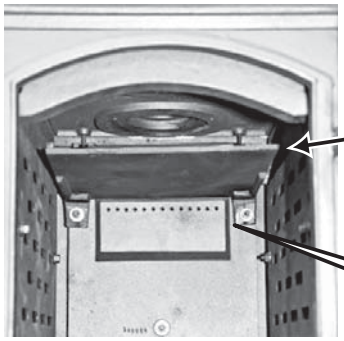


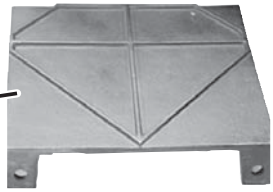


4. 煙突受けをストーブ本体に皿頭ボルトセットで取り付けます。
（ネジを3ケ所仮止めしてから、本締めしてください。）



5. 対流背面バッフルを固定します。



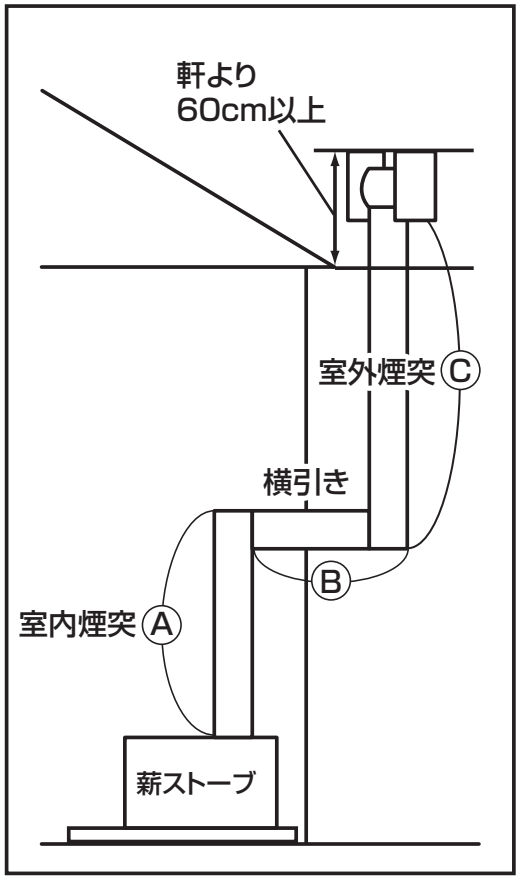


背面空気流入口の両脇にあるボルトにはさんで固定してください。

■煙突の取り付け方

※煙突の取り付けは販売店へご相談ください。
煙突パイプ内径:Φ106mm使用

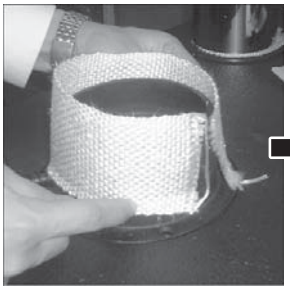
●壁出し煙突の場合
煙突を壁出しで設置する場合、効率よく燃焼させるため横引き(B)の長さを室内煙突長さ(A)の1/3以下で設置するのが理想です。家の構造や屋根の軒などの都合で横引き距離を伸ばす場合は、極力1m以内で横引き(B)を設置してください。それ以上伸ばすとドラフト効果を得られなくなり、すすやタールが溜まりやすくなります。
室外煙突(C)の長さは横引き(B)の長さの1.5～2倍以上長くしてください。
また、壁出しの場合は煙突が外気に触れる面積が大きく、熱せられた煙が冷やされ結露してしまいますので、二重煙突をおすすめいたします。
施工については専門知識を持つ施工店、販売店へご相談ください。



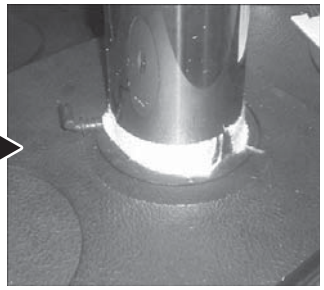
<関連法令>
●消防法第九条
(火を使用する設備、器具等に対する規制)
●建築基準法施工令第115条(建築物に設ける煙突)
●火災予防条例準則第1条(目的)
●火災予防条例準則第6条(壁付暖炉)
●火災予防条例準則第17条の2
(火を使用する設備に付属する煙突)

■ストーブ本体と煙突の気密を良くしたい場合
市販の断熱用ガラステープ(ノンアスベストクロス)を煙突受けの外周に合わせてハサミで切り、煙突受けに巻きます。
ずれないように煙突を差し込んで完成です。

市販の断熱用ガラステープ
(ノンアスベストクロス)

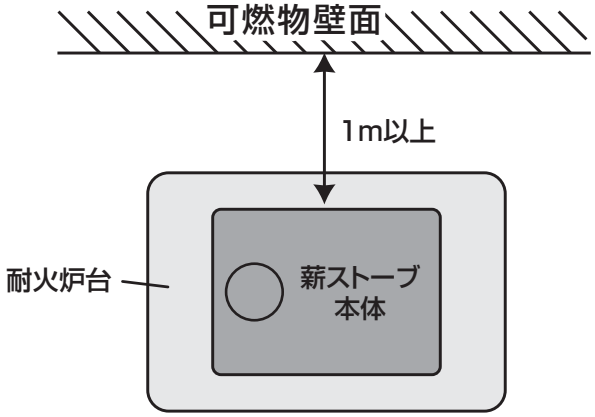

煙突受けに巻きます。

ずれないように煙突を差し込んで完成です。

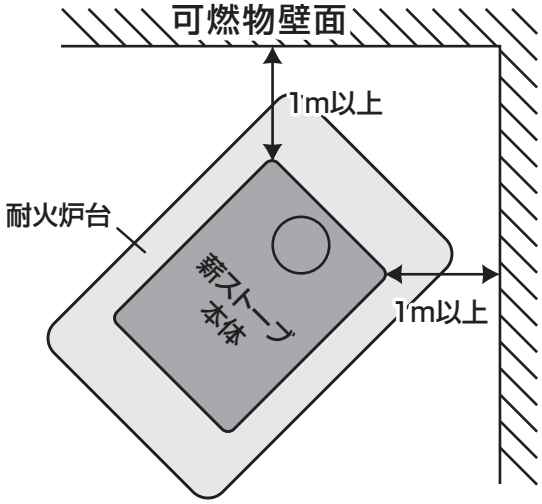


■設置上の注意

●設置場所

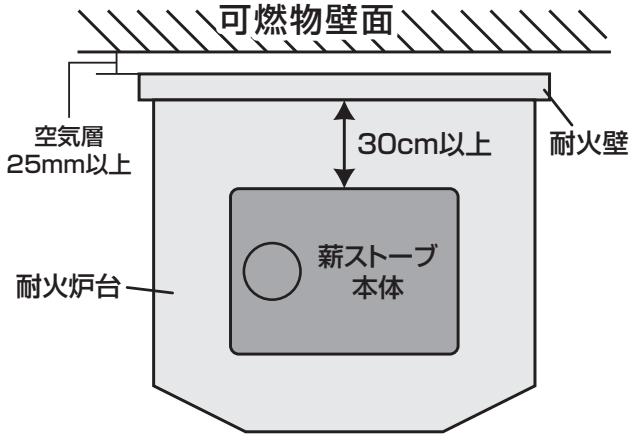


<耐火壁がない場合>



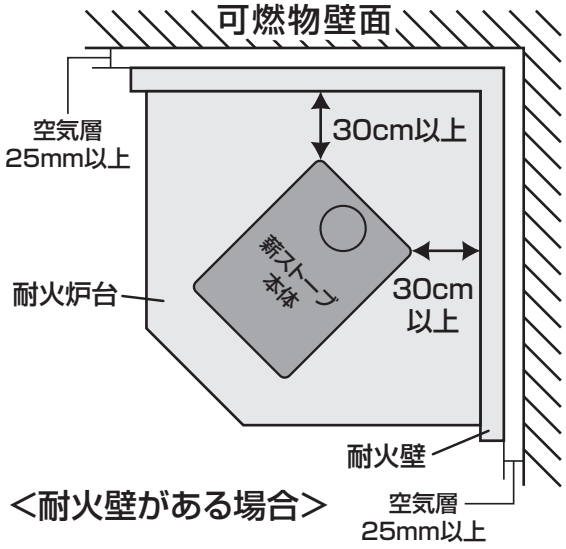
<耐火壁がない場合>

平行に設置する場合



<耐火壁がある場合>

45° アングルに設置する場合



<耐火壁がある場合>

⚠ 注意

- ●低温炭化を起こし、火災の原因になりますので、不燃材を使用した炉台の上に薪ストーブを設置してください。また、薪ストーブと壁の離隔距離を十分に取り、炉台と壁や床の間にも25mm以上の空気層を設けてください。
- ●壁材によって長時間使用すると、壁が変色したり変形することがありますのでご注意ください。
- ●薪ストーブ周辺1m以内に可燃物を置かないでください。
- ●薪ストーブを壁面から1m以上離すことができない場合は、壁面をレンガ・タイル・石・コンクリート・サイディング等の不燃材料で補強してください。
- ●万が一に備え、薪ストーブを置く部屋には消火器を常備してください。

■薪ストーブの使い始め時の注意

●新しい鋳物ストーブの慣らし運転

薪ストーブは熱に強い鋳物が素材として使われていますが、新しいストーブはまだ高温に対してなじみがありません。
特に急熱・急冷を得意としない鋳鉄は、いきなり高温まで上げてしまうと、最悪の場合、変形や割れてしまうことがあります。

この現象を防ぐために慣らし運転が必要です。
またこの慣らし運転は、まったくの使い始めだけでなく、シーズンの初めに、まだ薪ストーブが連続運転に慣れていない時も同様の扱いをしてください。

慣らし運転の手順

① ストーブ内にあらかじめ、灰や砂を入れてください。
② ストーブ温度計(別売)を使用の場合、200℃前後で3時間ほど燃焼します。
※始めはストーブ全体から煙が立ち上がります。(塗料が焼けて発生する煙です。)しばらくすると煙も出なくなりますので、換気をしながら慣らしてください。
③ 3時間経過したら一度火を消して、表面が冷めるまでお待ちください。
④ その後、再度200℃前後で3時間ほど燃焼します。
この作業を2～3回行ってから本格的にご使用ください。
※最初にきちんと慣らし運転をしないで焚き始め、なんらかの損傷が起きた場合には、交換等のご要請はお受けできませんので、必ず慣らし運転をしてください。

●薪ストーブの温度目安

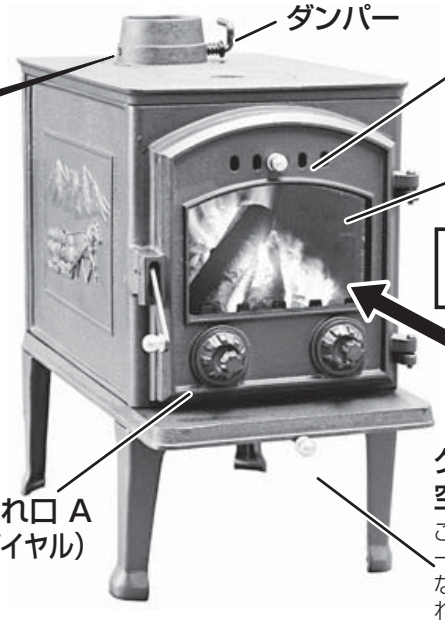
※温度は薪ストーブ上面温度です。

10℃～200℃	低温燃焼はクレオソート、煙、すすの原因となります。 空気口を開け燃焼を促進させてください。 十分乾燥した薪をご使用ください。
200℃～300℃	適正燃焼温度です。(煙突内温度が150℃以下でタールが発生する。)
300℃～	ストーブの温度が高すぎますので、鋳物を傷めたり周囲が加熱する原因になります。 空気口を絞り火力を下げてください。

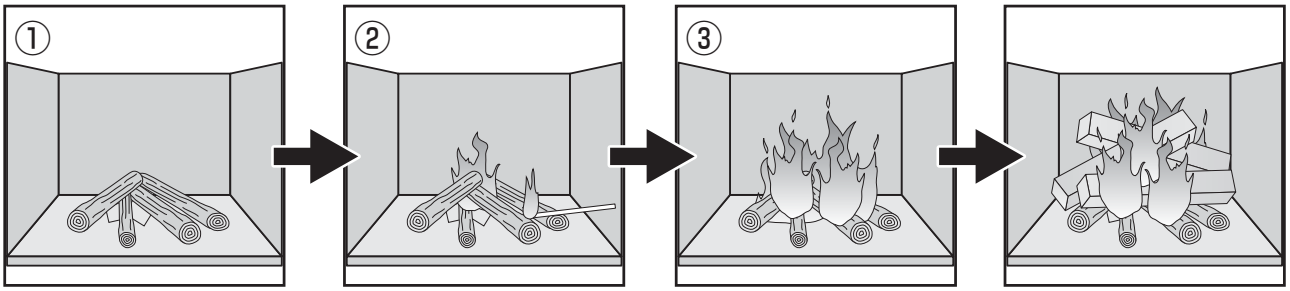
注意 薪以外は燃やさないでください。特にプラスチック、ビニール等は絶対に燃やさないでください。
ベニヤ板、合板などは混合物及び接着剤により大変高温になりますので燃やさないでください。
松や杉など針葉樹はヤニやすすが多く発生しますので注意してください。

■ご使用方法

●空気調整(火力調整)



●薪の焚き付け方法



※薪は必ず乾燥した薪をご使用ください。(使用可能薪サイズ:Φ8～10cm×長さ30cm以下)
※着火する時は必ずダンパーを全開にしてください。
※薪ストーブ用着火剤を使いますと焚き付けが簡単です。また、薪が湿っていると着火しにくい場合があります。
①空気取り入れ口A･Bおよびクリーンバーン空気調整用レバーを全て開け、薪ストーブ用着火剤を1、2個置き、細めの薪を上に乗せます。
②マッチなどで着火します。
③焚き口扉を閉めて、細い薪への着火を待ちます。火が細い薪へ着火し、火に勢いが出てきたら太い薪を投入し、太い薪への着火が確認できてからダンパーを閉めます。

⚠ 注意

●焚き口扉以外からは、絶対に薪を入れないでください。万一、ご使用中にガラスが割れ、煙が漏れ出したら早急に火種を消火してください。
●火種をすぐに消火できるよう、水を入れたバケツを用意しておいてください。
●就寝前･外出の際は空気調整口A･Bおよびクリーンバーン空気調整用レバーをしっかり閉めて、火種が完全に消えたことを確認してください。

●空気調整(火力調整)の方法

○薪ストーブの火力調整は、ストーブ内への空気供給量を調整することで行います。
○炎の勢いを強める時は、空気取り入れ口A(空気調整ダイヤル)を開き、空気供給量を増やします。逆に炎を弱める場合には、空気取り入れ口A(空気調整ダイヤル)を閉めて空気供給量を減らします。
○薪ストーブの適正燃焼温度は200～300℃です。
ストーブ温度計(別売)等を使用して、適正な温度にて燃焼させてください。

※空気取り入れ口A・Bおよびクリーンバーン空気調整用レバーは、全てストーブ内への空気供給量を調整するものです。これらを併用することで、適正温度で燃焼するようコントロールしてください。
※薪が「おき火」になったら、薪を追加投入して燃焼を持続させてください。
薪を入れる時は、必ずダンパーを全開にしてから入れてください。
ダンパーを全開にしないと室内に煙が逆流することがあります。
また適正燃焼温度になったら、必ずダンパーを閉めてください。

⚠ 注意

●燃焼中はヤケドに注意し、操作は必ず革手袋等を着用してください。
●耐火ガラスに薪が当たらないように薪を投入してください。
●初期燃焼中はストーブ表面の塗料が焼ける臭いがしますが、異常ではありません。
しばらく換気してご使用ください。その後臭いはしなくなります。

●消火方法

消火時は空気取り入れ口A・Bおよびクリーンバーン空気調整用レバーを
完全に閉めてください。

●灰の後始末

ストーブ内に溜まった灰はまだ熱を持っていますので、後始末する際も十分注意してください。
灰は燃えない材質のバケツ等に入れ、フタをして密閉し保管してください。
すべての灰を取り除かないで少し残しておけば、次に使う時の火種の温床になり、鋳物も傷めません。
灰はお住まいの地域の自治体のルールに従って廃棄してください。

■薪ストーブ・煙突の設置について

煙突も薪ストーブ暖房にとって重要な部分です。
設置方法が不十分ですと性能及び安全性を損なうおそれがあります。
薪ストーブは薪(燃料)を燃焼させることにより、暖まった煙突内部の空気がドラフト効果(上昇気流)をおこし、煙を煙突から屋外へ排出します。
燃焼温度が高ければ気流は大きくなり、スムーズな排出ができますが、外気温が低すぎますと煙突が温まらず、うまく排出ができません。
排煙に含まれるタール等が急激に冷やされますと液化して、クレオソートの原因となり、煙突内部に付着し、それが堆積して煙道を狭くしたり、煙道火災を起こしてしまう原因ともなりますのでご注意ください。
煙突は外気になるべく触れないような構造が望ましいですが、シングル煙突よりも断熱効果のある二重煙突を設置するほうが良いです。
二重煙突は煙突内部の排煙温度を冷気から守るだけでなく、壁から煙突を出す際のように、煙突から熱を受けやすい箇所、可燃物の近くを煙突が通るなどといった場合に安全面を考慮して設置してください。
薪ストーブの取り付け、煙突の設置は建物及び部屋の構造、屋根の勾配、風向き、雪の影響、火災予防などを考慮し、条件に合った部材を選び、正しく設置してください。

■煙道火災について

煙道内に堆積したすすやタールなどが高温時に熱せられ瞬間的に発火することがあります。これが煙道火災です。煙道火災は、排煙が冷やされ、すすやタールが堆積しますと起こりやすくなります。煙突表面温度は非常に高温となり、煙突が真っ赤になるケースもあります。
また、壁などに熱が伝わり、火災になるおそれがあります。これらを防ぐために煙突掃除は必ず定期的に行ってください。
水分の多い生木や松、杉などの薪はすすやタールが発生しやすいので、煙突掃除はこまめに行ってください。
また、市販の煙突クリーナー等の触媒を利用することにより、すすやタールを落としやすくし、煙突掃除を軽減できたりします。

■低温炭化について

薪ストーブ本体や煙突表面からの輻射熱により、数年間に渡って木材の表面が炭化してゆく現象が「低温炭化」現象です。これは木材の種類、壁面・床・天井の材質や構造によって、80℃位の低温からでも発生します。
低温炭化を防ぐには不燃材を使用した炉台の上に薪ストーブ本体を設置してください。
また、薪ストーブ本体、煙突と壁の離隔距離を十分に取り、炉台と壁や床の間にも25mm以上の空気層を設けてください。
シングル煙突は可燃物に対して1m以上の離隔距離を取ってください。
炉台、耐火壁は可燃物との間隔を25mm以上あけることによって、そこで空気の流れができて、有効なヒートプロテクターとなります。また、可燃物との間には不燃物で遮へいすることをおすすめします。

■お手入れ方法

●オフシーズンは次のシーズンに使う準備として目地を耐熱パテで補修し、残っている灰はきれいに取り除いてください。
●ガラスは耐熱ガラスを使用しております。ガラスに付着したすすは市販のストーブ専用ガラスクリーナーで拭いてください。
●煙突にすすが付着し、煙がスムーズに流れないと燃焼が悪くなり、不完全燃焼の原因となります。また煙が室内に充満したりしますので、煙突の清掃はこまめに行ってください。

■煙突掃除について

＜煙突掃除に必要な物＞
煙突掃除棒、煙突用ワイヤーブラシ、安定性のよい脚立、高さ調整可能なハシゴ、手袋、新聞紙、ビニールシート、ビニール袋、ガムテープ

①ストーブの周辺に灰やすすが落ちてもいいように、新聞紙やビニールシートを敷く。
②ストーブ本体と煙突をはずし、ビニール袋を煙突にガムテープ等で取り付ける。
　壁出し煙突の場合はT曲のフタをはずし、そこにビニール袋を取り付ける。
③煙突掃除には煙突径と同じ径のワイヤーブラシを用意し、掃除棒にしっかりと取り付けて少しずつ動かす。これを2～3回くり返すと大体のすすやタールは取れます。
④煙突内の掃除ができたら、はずした煙突を元通りにセットして終了です。

⚠ 注意

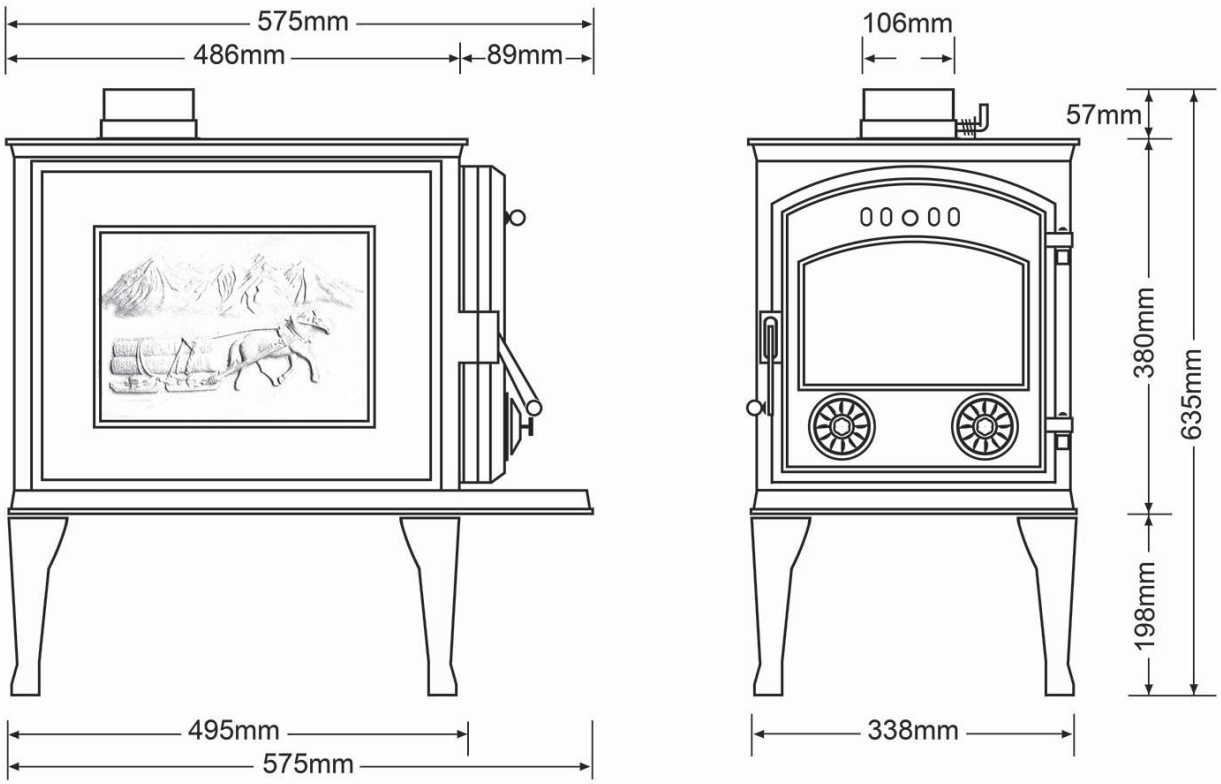
●屋根勾配の急な場合は、無理をせず室内から掃除をしてください。
●屋根の上での掃除は十分に注意して足場を確保し、決して油断しないでください。

■ストーブが燃えにくい、煙が逆流する等の原因について

下記のような原因が考えられます。
①給気が十分取れていない場合に起こります。気密性の高い住宅の場合に多く見られ、ストーブの扉を開けると炎が室内側へ逆流するバックドラフトの原因になり危険です。
　室内に十分な空気を供給するために外気取入口を設置するか、部屋の扉を少し開け、気密性を緩和させてご使用ください。
　また、焚き付け時に室内で換気扇などをご使用の場合、室内の気圧が下がり、煙が煙突に吸い込まれませんので、着火時は換気扇を止めてください。
②煙突の高さが足りない場合にも起こります。室内に煙が逆流し充満することもあるので、室外煙突を延長し高くしてください。
　煙突設置基準では横引き長さ(室内高さ1/3以下)に対して、室外煙突高さは1.5～2倍以上ないと十分なドラフトが得られません。
③設置環境が風圧帯にある場合にも起こります。風圧帯は建物の屋根の形状や周辺の環境によって、室内の気圧や煙突内の気圧より、屋外の気圧が高圧になる現象です。
　この気圧差により、空気が煙突内に引き込まれて逆流してしまいます。
　煙突トップを棟より高くしてください。風圧帯は気象条件でも異なります。

④すすやタールが煙突、ストーブ本体に付着している場合。
煙道内が狭くなると排煙の通りが悪くなり、煙道火災の原因にも繋がりますので、煙突、ストーブの掃除はこまめに行ってください。
また、使用する薪は広葉樹をおすすめします。松や杉などの針葉樹はヤニが多く、完全燃焼しないとクレオソートを発生させ、煙道内に付着しやすいです。湿った薪や生木も不完全燃焼を起こしやすく、煙道内をすすやタールが堆積し、狭くしてしまいますので危険です。薪は薪割りしてから1年くらい、風通しの良いところで乾燥させてからご使用ください。
他、鳥などが巣を作ってしまうと同様に煙道を塞いでしまいますので取り除いてください。

■寸法(約)


575mm
486mm
89mm
106mm
57mm
380mm
635mm
198mm
495mm
575mm
338mm
338mm